



麻布幼稚園だより

令和3年7月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美



7月に入ると、本格的な夏の訪れや梅雨明けの時期への関心が高まります。梅雨の時期、大人にとっては困ることがある雨も、子供たちにとっては楽しいことの一つとなっています。

先日、急に降り始めた雨に、「大変、雨宿りしなくちゃ。」と、園庭で遊んでいた5歳児の子供たちが、友達や先生とパラソルや外倉庫の軒下で雨宿りをしていました。そして、空から落ちてくる大粒の雨をじっと見たり、雨の音に耳を傾けたりしていました。「雨宿り」という言葉の響きや、「雨宿り」を実際に行っていることにも、ワクワクしている様子でした。

幼稚園には小学校以降のような教科書はありませんが、「幼稚園教育要領」には、幼児の学びにつながる経験が積み重ねられることにより育まれる「資質・能力」や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されています。教師は、幼児の発達や興味・関心に合わせた経験ができるように環境を準備し、遊びや生活が展開されるようにして幼児の学びを支えます。ですが、幼稚園の中では、教師が意図して準備をしたことだけではなく、様々なことが起こります。そして教師は、この様々に起こることは「困ったこと」ではなく、「幼児の学びにつながる大事な機会」と捉えます。

中でも、たくさんの友達とかかわり様々な経験を重ねることは、貴重な機会と考えます。たくさんの友達がいる中で、また友達と関わりながら遊ぶ中では、自分の思うようにいくことばかりではありません。いざこざやけんかになってしまうこともあります。思いがけず、相手に嫌な思いをさせてしまうこともあります。自分の気持ちを調整し、折り合いをつけなければならないこともあります。気持ちが高じて相手を叩いてしまうということも起こります。相手を叩いてしまったり、相手を傷つけるような言葉を使ってしまったりしたときには、教師は、その場でしてはいけないことについてしっかりと伝え、謝るべきことは謝れるようにしていきます。同時に、年齢に応じて相手に伝えたいことは何だったのか、何が嫌だったのかなどの思いを聞いたり受け止めたりします。そして、自分の力で相手に伝えられるように支えていきます。こういったことの繰り返しの中で、子供たちは相手の気持ちや状況に気付いたり、思いを受け止めたりするようになっていきます。また、自分の行動を振り返ったり、状況を解決するための提案をしたりしながら、より楽しく遊ぶ経験を重ねていきます。

一人ひとり、それぞれに個性があり学び方はそれぞれですが、学んでほしいことは、「人も自分も大切にすること」です。そして、気持ちや行動を自律的に調整しながら、人と関わる楽しさを味わえるようになってほしいと思います。

これらは、幼稚園というたくさんの子供たちがいる環境の中、子供たち一人ひとりに個性があるからこそ経験できることです。自己主張のぶつかり合いや葛藤などを通して互いに理解し合う体験は、幼児の「道徳性・規範意識の芽生え」「人と関わる力の基礎」が育つために必要な経験です。保護者の皆さまには、これらがマイナス経験であると恐れず、否定せず、互いの子供にとっての大切な学びにつながることをご理解いただきながら、共に子供たちの成長を支えていただくと願います。